

○パブリックコメント実施結果

(1) 実施内容

- 募集事項** : 「京丹波町子ども・子育て支援事業計画（素案）」について
- 実施期間** : 平成27年1月13日（火）～平成27年1月26日（月）
- 募集対象者** :
 - ・ 町内に住所を有する方
 - ・ 町内に事業所等を有する方
 - ・ 町内に通勤・通学している方
- 閲覧場所** :
 - ・ 京丹波町和知支所（教育委員会）
 - ・ 京丹波町中央公民館（教育委員会 丹波分室）
 - ・ 京丹波町瑞穂支所（教育委員会 瑞穂分室）
 - ・ 京丹波町健康管理センター（子育て支援課）
 - ・ 京丹波町立須知幼稚園
 - ・ 京丹波町立保育所（上豊田保育所、みずほ保育所、わちエンジェル）
 - ・ 京丹波町ホームページ

(2) 実施結果

- 意見総数** : 意見提出者3人 / 意見総数5件

○提出された意見への対応

- ・ 計画に意見を反映する … 0件
- ・ 計画(素案)に盛り込まれている … 2件
- ・ 意見・要望としてお聞きし、今後の参考にする … 3件

○提出された意見と考え方

- ① 放課後子ども教室について、素案16ページ（7）に「平成25年度は8つの小学校区で4教室開設しています。」とありますが、町内にはありませんし、南丹圏域の話なのか、この記述ではよくわかりません。私自身は、放課後子ども教室について興味を持っており、ホームページで長岡京市や綾部市で行われている取り組みの記事を読むと、京丹波町にもこういう教室があれば良いのにな、と思います。30ページに書かれてある基本ビジョンにあるように、子どもをはぐくむ地域コミュニティの充実をめざすには、地域住民やPTAを中心に地域ぐるみで行うことができる放課後子ども教室は、うってつけなのではないでしょうか。京丹波町の「田舎」ならでは、地域づくりを生かした子育て施策に期待しています。よろしくお願いします。

<考え方> 地域の方々の協力を得て、放課後や週末に小学校や公民館で学習・スポーツ・文化芸術活動などを体験する取り組みを、「桧山わいわいクラブ」と「ふれあいサタデークラブ」で実施しています。また、地域の方々の支援を得て、授業や学校行事など行う取り組みを「瑞穂小学校」と「和知小学校」で実施しています。京丹波町ならでは、子育て施策を進めるひとつの方法として、今後の参考にさせていただきます。

- ② 休日救急診療所が必要との要望がたくさんあったことを受けて、京丹波町病院で小児科の午後診（夜診）をお願いしたいです。夜診をしているのは、近くで園部町という現状で、仕事終わりに受診しに行くには遠く、子ども自身はもちろん、親にも負担がかかる。地元であれば祖父母に受診をお願いすることも可能になると思います。必要なときに頼れないので、京丹波町病院をかかりつけ医にしたいけれどもできない現状がある。

<考え方> 医師確保等の調整が必要なため、意見・提案としてお聞かせいただき、今後の参考にさせていただきます。

- ③ 病児保育・病後時保育の設立をお願いしたいです。お迎えまで1時間など、あと少しという時に呼び出しがあると困ります。全身の症状が悪くしんどい時はやむを得ないと思いますが、症状があっても比較的元気に過ごしている時には病児保育という形で保育所の一角で預かっていただけるとありがたいです。

＜考え方＞地域子ども・子育て支援事業の一つとして盛り込んでいますので、意見・提案としてお聞かせいただきます。

- ④ アンケートの結果から、要望のあったものは特に（少数意見ももちろんのこと）住民の本来に必要としているものなので、一刻も早く実現していただきたい。

＜考え方＞アンケート結果を踏まえて本計画を策定していますので、意見・提案としてお聞かせいただき、計画実現に向けて取り組んでまいります。

- ⑤ 子育て支援のネットワークづくり（58ページ）について、町の子育て支援課の行う事業以外のサークル活動を含んだSNSでの情報発信を望んでいます。具体的には1ヶ月単位で、いつ、どこで、どんな内容の活動が行われているのかを短期で受け取りたい（例：「京丹波子育てインフォ」）。なぜ？短期間で受け取りたいか、紙だとなくしがち（特に小さい子どもがいると親も忘れがちになる）、情報を見るのにいろいろな場所を開いてみるのが面倒。（家事育児の合間にささっと情報チェックをしてしまいたい、じっくりパソコンの前に座れるのは夜中か、子どもの昼寝の間、昼寝の間は基本家事を行うので見れることは少ない）

内容：町の子育て支援課の事業、子育てサロンにしふうせん（社協）、さくらんぼ（社協ボランティアルーム）、こども企画（旧質美小学校）、町や個人が行う子ども向け事業（具体例：熱気球、子どもの日の自然公園イベント、ヨガ、料理、放課後ルーム、町公民館事業、図書館新刊情報、お出かけ情報（町の観光課連携））等の情報をそれぞれの施設の代表者からメール等で受け取り統括する。〇歳児検診の情報などもその月にあれば、一緒に記載してもらえたら嬉しい。もぐもぐ、カミカミ、発達支援情報、障害児事業の相談日等も。

FACEBOOK（情報の内容確認）やLINE（アプリでの情報発信、FBへの連携で内容確認）など若年の子育て世代が利用しているツールを媒体として使用。情報のとりまとめは支援センターもしくは新規事業として町と連携して行う。取材や支援活動の人物（こんな人がいます、安心してきてくださいという顔写真、施設風景写真なども積極的にアピールしてほしい、現状ではアピール力は弱い）会員システム？は町のページからや、母子手帳をもらいに来られた時点で案内。1～2年配信をして希望者が多ければ、内容を充実（保育所、高校願書提出日や貰いに行く場所等の細かい情報や、予防接種のタイムスケジュール、お誕生日おめでとう配信など）、あくまで子育てに役立つ情報のみをまとめる。

町で出来ないのであれば委託（新規事業）発足まで時間がかかるのならば、町主体ではなく新しく立ち上げて柔軟に動けるものを置いたほうが望ましい。（しかしながら、あくまで連携をして一定の権限で動く）

たくさん内容がある中の一部分へのパブリックコメントとなりますが、必要性があるのになされていないことですので、どうぞよろしくご検討くださいませ。

＜考え方＞子育て支援のネットワークづくりとしては、地域のつながりの希薄化や家庭における育児の負担軽減を含めた子育て家庭への支援体制構築をめざしており、まずは人と人とのつながりを大切にするよう考えています。そのことも踏まえ、今回のご意見・ご提案は「施策の方向性」や「具体的な取り組み事業」を展開するうえでの、情報発信の手法の一つとして参考にさせていただきます。